2017 年度（平成 29 年度）
事業報告書

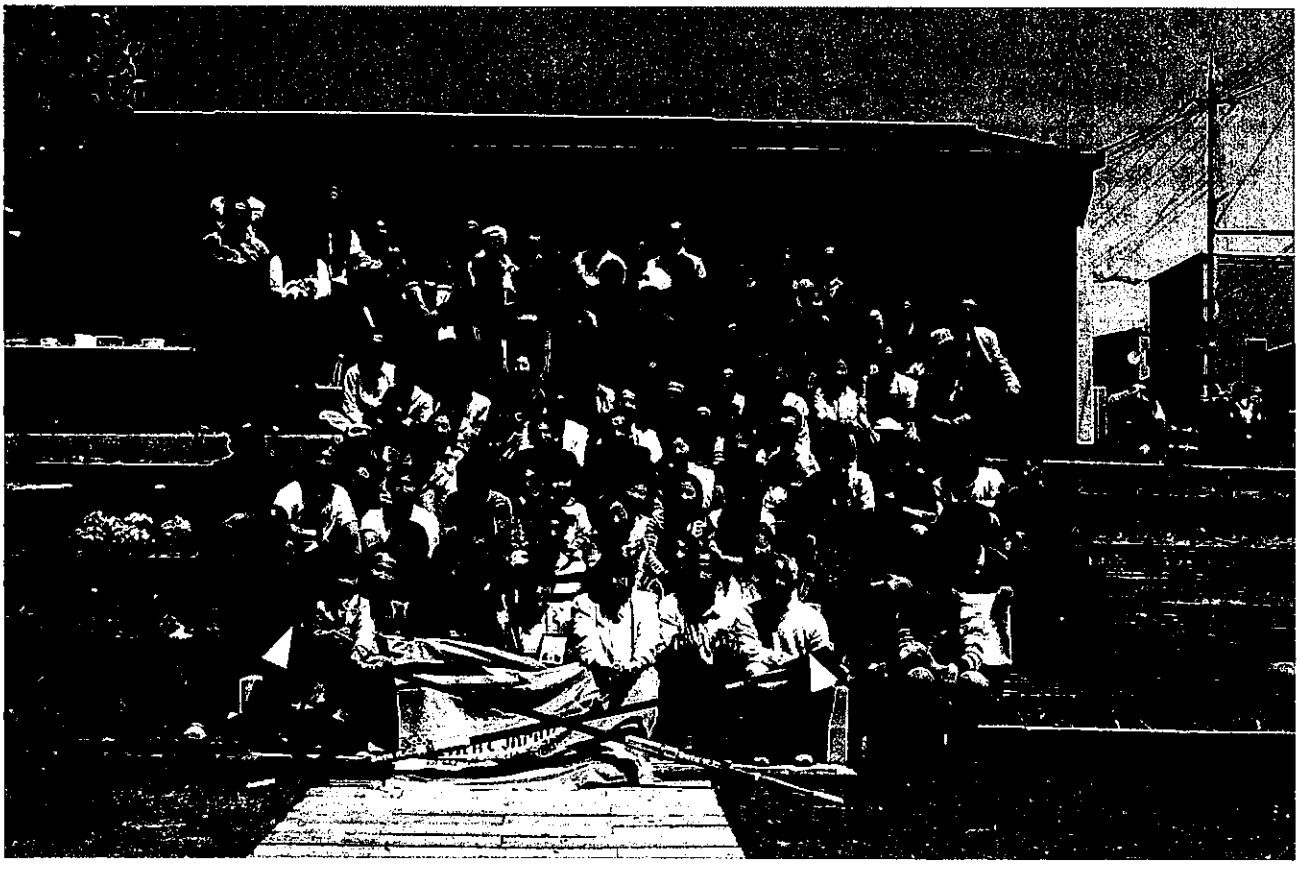
2018 年 2 月

滋賀県大津市大萱六丁目1

総合型地域スポーツクラブ

特定非営利活動法人瀬田漕艇倶楽部

代表理事　太田 俊二



2017 年 4 月 30 日　瀬田漕艇倶楽部 創立 40 周年記念パーティ

[1] 2017 年度活動報告

1 特定非営利活動

2016 年度定期総会にて以下の目標を掲げ、年間活動に取り組んだ。

1.全体　倶楽部理念や建設の趣旨に沿った Furukawa House の活用を検討・実践し、世代を超えた会員間の交流や他団体との交流を活発化する。特に地元中学・高校ボート部や大学ボート部との交流を深め、若手選手の入会に繋げていく。
三大事業に集中して運営を進める。より良い倶楽部運営体制の検討。
倶楽部設立 40 周年記念パーティの開催。

2.安全　(1) 安全規則の随時見直し(初版 2005 年)。
(2) 安全講習会実施、沈回復の練習会の実施。
(3) インシデント・アクシデントレポート作成の推進。

3.保全　多様な事象に対応する為,部門の整理及び人材育成を主とする.

4.施設　老朽化した所の対応、使い勝手を見直した修繕計画と備品購入計画。

5.事務　各担当者との連携による円滑な事務作業。

6.特別　びわこ市民レガッタの参加者 100 クルー(500 人)以上。地元企業、自治体、自治会から募る。
Head Of The SETA の参加者 800 人以上。各ボート団体への個別交渉。
近畿マシンローイング A 大会を運営し、参加者 700 人以上。
三大事業合計 150 万円以上の収支を得る。
プロ(有給)コーチによる、小学生ボート教室や会員向けコーチングを継続・拡大する。

7.普及　ボート・ドラゴンボート・カヌーの体験教室をクラブ全体で運営し、年 250 人を目標とする。新たな普及活動を検討・実行していく

8.収益　ウェブを活用して、年間 50 万の収益確保に取り組む。
新たな収益財源確保に向けて具体案を検討する

9.財務　会計処理フローの構築。賛助会員拡大に向けての PR。

10.広報　月一回の確実な会報発行。

11.活動　倶楽部運営収支 100 万円、NPO 事業収支 200 万円、収益事業収支 50 万円の計 350 万円の現金収支を確保するための、工夫・新たな取り組みを計画、実行
選手チームは、全日本選手権でのメダル獲得を目標とする。選手層のメンバー獲得を推進する。
杉藤コーチの指導のもと、競技力強化、魅力ある選手チーム作りを進める。

【総括】

2017 年度は、倶楽部創立 40 周年の節目の年であった。4 月 30 日に記念パーティーを開催し、100 名近くの会員が Furukawa House に集った。これまでの歴史を振り返りながら、諸先輩方のご努力に感謝すると同時に、その伝統を大事にしつつも新たな挑戦をし続ける事で、さらなる伝統を積み重ね、50 年・100 年と続く倶楽部に発展させていくことを皆で誓った。また、40 周年記念事業として取り組んでいた、認定 NPO 法人化については、滋賀県の審査を経て 2 月 3 日付で認定を受けることができた。昨年度から取り組んでいるホストタウン交流(海外選手招致)事業や小学生を対象としたジュニアボート教室、「しがスポーツ大使」としての冬季のマシンローイング教室も、継続して実施した。また、2年目となった杉藤コーチの指導は高校生も対象とし、週 2 日ではあるが、平日の夕方に乗艇練習ができる環境を整えた。

三大事業である Head Of The Seta、びわこ市民レガッタ、マシンローイング大会による収益は、昨年度より 5.8 万円減の 149.0 万円(助成金等を含む)となり、目標の 150 万円に未達ではあったがほぼ目標通りの利益を確保した。いずれの事業も多くの人達に参加いただける魅力ある大会であること、効率的な運営ができていること、すなわち実行委員を中心に多くの倶楽部員の努力が、この結果につながっていると考える。

選手活動に関しては、全日本軽量級選手権の男子シングルスカルで 6 位入賞を果たしたが、他の主要レースでは、順位を付けることはできなかった。そんな中、高校2年生の嶋と田中がダブルスカルで、滋賀県代表として国体近畿ブロック大会に出場、全日本新人選手権では準決勝進出するなどの活躍をし、来シーズンが楽し

みである。杉藤コーチによる指導体制をさらに強化し、倶楽部設立当初から掲げている「チャンピオンからサンデースカラーまで」を、実現するための取り組みを着実に前に進めることが、当面の課題である。その為には、コーチや選手の努力だけでなく、多くの会員の積極的な支援・応援が必要である。多くの会員が支援・応援したくなるようなチームであること、そう思えるような選手達の熱意や行動が必要であると考える。

2017 年度の NPO 事業での固定資産取得等を含む現金ベースの経常収支は、68.9 万円の赤字予算に対して、210.5 万円の黒字となった。これは、アネックス外壁・屋根塗装の未実施もあるが、収益の増加に加えて、小さな節約の積み重ねや不急の支出は先送りするなど、会員全員の工夫・努力の成果である。収益事業活動においては、昨年度より事業整理と省力化を図りつつ、年間の収支(粗利)は昨年度比 15.1 万円減の 48.9 万円となった。なお、全日本新人選手権での艇損傷による賠償金については、会計処理上は、支払の事実に基づき経常外費用として計上したが、総会での決定事項に沿った処理を、2018 年度で行う、

2017 年度末の会員数は、正会員 150 名・賛助会員 65 名の計 215 名で、昨年度末から正会員は 8 名増加した。今年度も新入会員が 24 名と多かったが、入会後あまり活動することなく退会した会員もあり、新入会員に対するケアが必要である。また、賛助会員は 5 名減少となったが、倶楽部の活動を積極的に PR し認知度を高める、認定 NPO 法人への寄附金優遇税制の周知するなど、私たちを支援いただける賛助会員すなわち瀬田ローファンを増やす取り組みが必要である。

(1)ボート等競技大会開催或いは開催支援活動

① ボート競技大会開催

全国マシンローイング大会近畿大会(2017 年 1 月 15 日)

今大会も、ウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)で開催。本大会は、過去最高の 910 名の事前エントリーがあった。今大会は、アメリカから 2016 年リオ五輪男子軽量級ダブルスカルで 5 位入賞の Andrew Campbell 選手、Joshua Konieczny 選手のペアを招待したほか、滋賀県・大津市の『ホストタウン滋賀交流推進実行委員会』の交流事業の一環で、デンマークから 4 選手(MATHILDE PERSSON 選手・MARK HARTSTEEN 選手・FRIDA NIELSEN 選手・OSCAR PETERSEN 選手)を招待、国内からはリオ五輪日本代表の中野紘志選手、大元英照選手、大石綾美選手が参加し、「世界のトップを感じよう」をテーマに開催し、大雪の天候の中、国内からは北は仙台、南は熊本や宮崎などから選手が参加した。また、演出部門では、MC を仙石幸一さんに、照明を EGS さんに依頼をし、今までよりもさらに力を入れた。他にも、飲食ブースの出展や日本ボート協会のトライアウト事業の併催も行った。さらには、関西学生ボート連盟との協働で、大学交流ブースも新たに設置した。これからも、日本で最も活気のある MR 大会として、他の大会をリードする大会でありたい。

収入は 170.2 万円(昨年 151.3 万円)、支出は 125.5 万円(昨年 100.6 万円)で、収支は 44.6 万円(昨年 50.7 万円)であった。招待選手や演出にかかる費用が大きくなってしまったが、その分エントリー増やスポンサー獲得で収入を増加させ、収益性もあがる大会運営を継続していく。

※収支の額は助成金や付随事業の収支を含む

第 11 回びわこ市民レガッタ(2017 年 9 月 9 日、10 日)

今年も昨年に続き 102 クルー(棄権 2)のエントリーがあったが、事前に昨年の反省を踏まえたスタッフリーダー会議を行い部署の意見を聞くなどしたことからスムーズに運営できた。また無料練習会、前日練習会にも多くの初心者クルーが参加され大会運営が円滑に進んだ。

昨年まで使用させていただいたナフコの駐車場が使用できなくなり、今年は新浜ヤードに移り移動距離が伸び不安があったがおおきな問題とはならなかった。

課題としてマコンオールの劣化による破損が多くなり賄いきれない状況となったこと、また OBOG の部で艇の接触事故がありコックスの問題とともに艇の修理負担に関する取り決めが必要と感じた。

事業収益については艇の修理一部負担金 3 万円とマコンオールの劣化破損による借用代があり、収入は 114.8 万(昨年 113.9 万)、支出は 70.2 万円(昨年 62.1 万円)で収支は 44.6 万円(昨年 51.8 万円)となったが3年続き 40 万円以上の収益を確保できた。

2 日間の開催で倶楽部員には多くの負担をかけましたが来年度も引き続きクラブ交流会を含めた2日

間開催を予定しておりますのでご協力をお願いします。

第 26 回 HEAD OF THE SETA(2017 年 11 月 18 日、19 日)

瀬田川の NO.1 を決める瀬田川往復の長距離レースを 2 日間にわたって開催し、延べ 248 クルー638 人のエントリーを受け付けた。初日はシングルスカル、舵手付きフォア、カヤックシングル、カナディアンシングルなどのレースを行った。初日のレース後には Furukawa House で懇親会を開き参加者の親睦を深めた。2 日目はクルー種目を開催した。

収入は 111.8 万円 (前年 102.0 万円)、支出は 46.5 万円(前年 49.7 万円)、収支は 65.3 万円(前年 52.4 万円)だった。

② ボート競技会等開催支援活動

ボート競技会等の開催支援

ボート競技では朝日レガッタ、高校春季総体、関西選手権大会、高校夏季総体、滋賀県県民体育大会、滋賀県ジュニア選手権、かいつぶりレガッタ、京都レガッタ、高校秋季総体に、審判を派遣した。また、滋賀銀行行内レガッタや大津市民レガッタでは、多くの会員がボランティアスタッフと大会を支えた。

(2) ボート競技の指導等・普及に関わる事業活動

①セミナー・講習会の開催

2017 朝日レガッタコーチセミナー兼公認スポーツ指導者義務研修会(近畿地区)(2017 年 5 月 5 日)

朝日レガッタ開催に合わせてコーチセミナーを開催。今年も公認指導者の義務研修を兼ねての開催となった。今年はナショナルチームディレクターのギザビエ氏の講習ということで、一般参加者 56 名、公認指導者 28 名と多数の参加を得ることができた。参加者の知識レベルに格差があり、"コーチ"セミナーという点では今後の課題である。参加費等収入 18.7 万円 経費支出 12 万円であり、収支は 6.6 万円となった。内容は以下の通り。

『日本のメダル獲得のために』 講師:ギザビエ・ドルフマン氏

日本が目指す基本的なローイングテクニックと、トレーニング方法を解説していただいた。

③ 水上スポーツ教室の開催等

初心者ボート体験教室(2017 年 5～11 月毎月第 1、3 日曜日)

5 月から 11 月の間に、初心者を対象にした体験教室を開催し、ボートでは、延べ約 130 名の利用があった。最初にエルゴメーターを使用した基本動作の練習と艇の基本的な扱いを説明した後に乗艇での指導を行い、ローイングの楽しさや湖上からの眺めを楽しんでいただいた。また、びわこ市民レガッタが近づくと、その練習として利用する参加者が多くなった。体験教室に参加後、入会される方も何名かおられ、新規入会のひとつの入り口となっていると考える。

また、ドラゴンボートでは、練習を目的として 4 回、約 60 名の利用があった

ひきつづき、水上スポーツの魅力をしっかりと伝え、幅広い年代の会員増につなげられるよう貢献していきたい。 (収入実績:2017 年 32 万円、2016 年 30 万円、2015 年 38 万円)

ドラゴンボート体験(セタシジミ祭 2017 年 4 月 23 日)

今年もセタシジミ祭で、ドラゴ ンボート体験コーナを実施した。「神龍(20人漕ぎ)」と「子龍(10人漕ぎ)」がフル稼働し祭を盛り上げた。ドラゴンスタッフは、倶楽部から4名を動員、大津市のドラゴンボートチーム「小寺製作所」「池の里 レイカーズ」の皆さんからも18名を動員して頂き、合計22名のスタッフで対応した。

小学生ジュニアボート教室

滋賀レイクスターズとのコラボレーションで昨年度より実施された地域の小学生対象のボート教室。昨年度は、5 名だった教室は、今年は9名で実施した。当初の目標は 10 名だったので、目標達成とはならなかった。シーズンについては、昨年度 5-10 月だったのを、今年度は、4-10 月で実施した。冬季の 11-3 月は、月 2 回程度で開催。

事務局としての仕事をレイクスターズが担い、指導面を杉藤コーチを中心に、猪飼さんが、アシスタント調整を中心にマネジメントを行なって実施した。

現在の指導状況のキャパシティは、10 名程度が上限であると感じている。今後事業を拡大するするのであれば、アシスタントの人数の増加とともに、猪飼さんが行なっているようなアシスタント調整等のマネジメントを行える人材を確保していく必要がある。

ジュニアボート教室の指導内容については、杉藤コーチのバリエーションある指導内容を基に、毎回充実した指導を行えており、参加する生徒は一人もやめる事なく事業を進められている。昨年度はシングルスカルに乗れる事を中心に実施していたが、参加者からの希望を踏まえ、今年は少し「競争」という観点を取り入れて事業を実施した。

(3) 水上スポーツ活動の支援

安全管理に関する活動

安全管理については、定例活動として①安全講習会の開催(開催回数:1回)、②シングルスカルの沈回復練習会及び今年は初めて回復サポート体験を行った③会員の事故発生時に連続発生の発生防止のためにメール発信をおこなった。④琵琶湖漕艇場から来る瀬田川及び琵琶湖での藻刈り作業及び洗堰の全開放流時の連絡を会員に対してメールの転送及びコメントを入れて注意喚起をした。⑤倶楽部内機関誌に安全に拘わる記事を毎月掲載した。⑥耐用年数を超えた AED の更新を行った。今まで使っていた AED は練習用あるいはバックアップとして事務室に保管している。⑥安全規則について、シングルスカルの沈回復能力の維持のために追記した。

安全講習会

・県ボート協会主催の安全講習会に会員の参加を呼びかけて5名が参加した。(12月10日)

アクシデント・レポートの作成(随時)

乗艇中に事故を起こした会員には、アクシデント・レポートの提出を指示した。何処に危険が潜んでいたのかレポートの作成で気づいてもらった。機関誌に一部掲載する事で会員にも周知をした。

沈回復練習会

沈からの再乗艇経験がなく、シングルの乗艇を希望する会員を対象とした、再乗艇講習会を実施した。高校生にはライフジャケットの膨らまし体験もしてもらった。シニアからは沈回復スキル確認のために参加して頂いた会員の方もいた。同時にシニア向けにバディによる沈回復のサポート体験会も行い。回復者側の艇舷を低くく保つ事で沈回復し易い事が判った。また、この沈回復練習会が安全担当理事が立ち会わなくても安全に配慮しながら、シニア層で実施して頂いた事は良い事である。今後も続けて頂きたい。

安全規則

シングルスカルの沈回復練習会を定期的に実施する事を追記した。沈回復能力を確認して頂く事にした。また、倶楽部でその記録を残す。

洗堰全開放流について

全開放流時における漕艇場でのシングルスカル練習について、沈回復能力、艇の操舵、及びトラブル時の判断能力に自身の無い人への自粛を促した。

平日シニア組の冬期乗艇自主ルールについて

1月20日(金)午前中、会員の三宅氏が舵無クォドプルの練習中に気分が悪くなり、病院に緊急搬送、手術及び入院となったが大動脈解離で病院で亡くなられた。当時の大津市は摂氏 2.1 度(10:00)の雪が舞う寒い天候であった。この様な仲間を失う悲しい思いを二度としたく無いことから平日シニア組は冬期における乗艇自主ルールを策定し、守って頂いています。

以下自主ルールの抜粋

① ヤフーなどの天気予報で朝の9時が5度以下　乗艇禁止
　　5度以上　水温10度以下　シングルスカルはコースのみ
② 乗艇前にストレッチ　エルゴで体を温める
③ 携帯　ホイッスル　所持
④ 救助方法の確認　漕艇場　か　救急車か
⑤ 注意報の確認　　低温注意報は乗艇禁止

。

(4) ボートに関する情報発信

クラブの月刊機関紙「漕艇通信」(会報)の月末発行、ホームページを活用した情報発信等を行い、クラブの活動に関する最近の情報を提供した。引き続き、「漕艇通信」はホームページ上で公開している。

(5) 選手競技活動

競技活動においては,主要大会では東田の全日本軽量級選手権男子シングルスカルにおいて 6 位入賞だけであり次年度への強化という点において非常に多くの課題を抱える年となった。

今年度から杉藤コーチの時間を増やし主に高校生の時間を設けた,その結果 田中/嶋の両名が着実にステップアップしており,また今までフォローしきれなかった層への競技アプローチが出来ており,瀬田漕艇倶楽部の競技力底上げに繋がっている。

来年度は、有給コーチを迎えての 3 年目に入るが各層への競技力向上アプローチまた選手育成システムをより確実なものとする。

(6) その他の活動

① プロコーチ杉藤氏によるコーチング

年額 200 万円を毎月按分する形で、杉藤コーチにお支払いをして、週 5 回 1 時間半～2 時間程度のコーチングの日を設置。これまでのマスターズメンバーへのコーチング及びリギング講習(月曜 AM)、選手チームのコーチング(木曜日早朝)及び年間のメニュー等作成、ジュニアボート教室でのメインコーチとして活動(土曜日 AM)以外に、新しく高校生を対象に、毎週月曜日と木曜日の夕方にコーチングをしていただく場を作り、新しく入会した高校生が、集まれる場になるとともに、トップを目指したい高校生が指導を受けられる環境を整えた。現在は、パートタイムでのコーチングだが、今後は、給与額を年度毎に増やしていきながら、フルタイムのコーチが雇える予算確保を必要となる。

② ホストタウン交流事業

ホストタウン交流事業とは、 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げる取り組みです。そして、瀬田ローは、滋賀県・大津市・米原市・立命館、びわ湖成蹊スポーツ大学、ビジターズビューロー、等で委員構成されている「東京オリンピック・パラリンピック滋賀交流推進実行委員会」に委員として参画し、事業展開に取り組んでいる。

瀬田ローのこれまでの海外選手との交流実績を踏まえ、同実行委員会の委託事業として、デンマーク選手等の海外選手の招致を実施。第 29 回全国マシンローイング大会近畿ブロック大会で、4 名のデンマーク選手を招致するとともに、地元の中高生向けに、トレーニング講習会を開いたり、日本とデンマークの文化の違いを感じられる交流会を実施した。

③ びわ湖ユニバーサルウォーキング大会

4/22(土)に開催された第 1 回びわ湖ユニバーサルウォーキング大会に、「しがスポーツ大使」として招聘され、会員 9 名が参加者と一緒になぎさ公園をウォーキングし、大会をサポートした。(ユニバーサルウォーキングとは、障害のある人もない人も、老いも若きも一緒になって助け合い支えあいながらのウォーキングのこと)

④ Biwako 湖フェス

NPO 法人 琵琶湖ローイング CLUB 主催の Biwako 湖フェスが、9/2(土),3(日)に、びわこ競艇場で開催された。ボート体験乗艇会支援の要請を受け、11 名の会員が乗艇会のスタッフとして運営に参画した。

⑤ 全員集合日の実施

月例全員集合日を実施した。清掃/艇整備/施設補修などをおこなった。

⑥ 施設関連実施事項

日常メンテナンスの実施

電動工具・電動機器化の推進

主な実施事項

4 月 Furukawa House サイン設置 (4 月 30 日の 40 周年記念パーティで除幕)

⑦ 大会への役員派遣

関西ボート連盟、滋賀県ボート協会、京都ボート協会、大阪ボート協会、大津市ボート協会等主催の大会にて、役員活動を行なった。

⑧ メディア出演等

1 月 4 日 産経新聞 24 頁 地域面 琵琶湖周航の歌百年 3 県民に連帯感 次代へ歌い継ぐ情熱
※琵琶湖周航百年の特集に鵜瀬さんのコメントが掲載
1 月 6 日 FM 滋賀 トリコロール ※近畿マシンローイング大会について阪口実行委員長が出演
1 月 11 日 朝日新聞 29 頁 地域面 外国人選手と交流会
※デンマーク招待選手と地元選手との交流会について掲載
1 月 12 日 京都新聞 WEB 版 ボートこぎ練習器具で速さ競う 有力選手集い大津で
※近畿マシンローイング大会について掲載
1 月 16 日 朝日新聞 35 頁 地域面 室内で 900 人漕いで競う ※近畿マシンローイング大会について掲載
1 月 16 日 京都新聞 21 頁 地域面 マシンローイング競う 大津で近畿大会
※近畿マシンローイング大会について掲載。
1 月 16 日 読売新聞 33 頁 地域面 ボート屋内マシン競う ローイング近畿大会
※近畿マシンローイング大会について掲載
1 月 16 日 産経新聞 26 頁 地域面 陸上でボート 熱い“こぎ合い”
※近畿マシンローイング大会について掲載
1 月 16 日付 仙石幸一 ｵﾌｨｼｬﾙﾌﾞﾛｸﾞ マシンローイング大会近畿大会の模様を掲載
※その他出演ラジオで紹介
1 月 16 日、18 日 びわ湖放送 キラりん滋賀 ※近畿マシンローイング大会について紹介
1 月 18 日付 FISA(国際ボート連盟)HP Japanese entertainment the indoor rowing way
※近畿マシンローイング大会について掲載
1 月 18 日付 高校野球ドットコム エルゴメーターで競うマシンローイング大会開催！
※近畿マシンローイング大会について掲載
レイクスマガジン vol65 2 月号 マシンローイング大会近畿大会の模様を掲載
レイクスマガジン vol65 2 月号 3 月に代表選考を控えた東田選手の抱負を掲載
2 月 24 日 USrowing News The Lightweight Double Takes on Kyoto
※近畿マシンローイング大会招待選手の Joshua Konieczny 選手が日本への遠征について投稿
4 月 3 日 京都新聞 26 頁 社会面 WMG「関西」へ懸け橋に 今月 NZ 大会 京滋選手が増加
※3 大会連続出漕となる下村さんのコメントが掲載
4 月 4 日 FISA(国際ボート連盟)HP Putting the fun into indoor rowing (インドアローイングに楽しみを)
※世界でのエルゴに対する新たな取り組みを紹介近畿マシンローイング大会も写真等で記事に登場
4 月 27 日 朝日新聞 1 頁 夕刊 こぎ続けるいくつになっても 朝日レガッタ 70 回

※70 回大会記念種目となる 70 歳以上 1×に出漕する木野さんセルジュさんを紹介
5 月 1 日　京都新聞　18 頁 地域面　40 周年祝い発展誓う　大津の「瀬田漕艇倶楽部」
※40 周年記念パーティーを紹介。
5 月 1 日　FM 滋賀(E-radio) style!　※40 周年記念パーティーを紹介。
5 月 3 日　朝日新聞　20 頁 地域面　瀬田北中生本番へ気合十分（琵琶湖漕艇場かいわい一週間）
※朝日レガッタに出漕する石原魅人さんのコメントが掲載
5 月 3 日　京都新聞　WEB 版　85 歳と 78 歳、ボートに情熱　大津・朝日レガッタ出場へ
※70 回大会記念種目となる 70 歳以上 1×に出漕する木野さんセルジュさんを紹介
5 月 5 日　朝日新聞　19 頁 地域面　70 歳のオール今も力強く　一般男子 1×安達温二さん
※70 回記念大会となる朝日レガッタに 70 歳の安達さんが一般の部に挑戦する模様を紹介
5 月 5 日　朝日新聞　19 頁 地域面 並ぶ競技用品ブース交流の場(琵琶湖漕艇場かいわい一週間)
※朝日レガッタ期間中ブースを出展する桑野造船の黄瀬さんのコメントが掲載
5 月 6 日　朝日新聞　19 頁　地域面 「助っ人」は女子高生　50 歳以上男子エイト
※平均 50 歳以上男子エイトに挑む中原さん伊藤さんを紹介
5 月 7 日　朝日新聞　27 頁　地域面　ボート歴 3 ヶ月　永谷順さん
※県勢クルー紹介にボートを始めて 3 ヶ月の永谷さんを紹介
5 月 7 日　朝日新聞　27 頁　地域面 記念種目選手も観客も笑顔（琵琶湖漕艇場かいわい一週間）
※朝日レガッタ 70 回記念種目に参加した木野さん、セルジュさん、今村さんのコメントが掲載
5 月 9 日　朝日新聞　25 頁　地域面　第二の人生夫婦でチャレンジ
※夫婦揃って 3 回目の朝日レガッタに挑戦した尾崎準さん・幸代さん夫妻を紹介
5 月 9 日　朝日新聞　25 頁　地域面　県勢入賞者コメント
※マスターズ 40 歳以上女子ナックル 2 位に入賞した盛田さんのコメントが掲載
レイクスマガジン vol68 5 月号　11 頁 全日本選手権でメダルを取る　ﾚｲｸｽｱｽﾘｰﾄ 2017　13 人の歩む道
※レイクスサポートアスリート東田選手のインタビューが掲載
6 月 24 日　産経新聞　2 頁　総合面　関西に来る(下)「スポーツの聖地」に脱皮を
※WMG にオークランド大会出場の下村さんのコメントが掲載
6 月 29 日　京都新聞　28 頁 社会面　流れとともに第 3 部瀬田川　夢の象徴地域根ざし
※瀬田漕艇倶楽部のクラブハウスと建設至る古川宗壽さんの想いを紹介、
古川ゐ喜子さんのコメントを紹介
6 月 29 日　毎日新聞　大阪版　水に挑んで大阪ボート物語 5 「ただ好きだから」続ける
※木野広一さんを紹介
7 月 7 日　WMG 関西 HP　ローイングを通じた出会いそこから始まる海外交流
※オークランド大会参加者の声のコーナーで下村さんを紹介
7 月 19 日　京都新聞　21 頁 地域面　超人的パフォーマンスに感動
※京都新聞地域面のコラムにて、杉藤コーチが NZ ロビー選手のワールドカップでの優勝を紹介。
みーつ びわ湖・大津実行委員会　みーつ大津・夏体験・まちあるきガイドブック 25 頁
ボートの聖地で本格協議ボート体験　地元食材のランチ付
※7 月末　8 月実施のびわ湖大津観光協会窓口の体験教室について紹介
9 月 24 日　中日新聞　12 頁　地域面　香港チーム注目呼ぶV
※香港ジュニアチームの受け入れを担当した太田俊二さんのコメントを掲載
9 月 25 日　中日新聞　15 頁　地域面　好天の中競り合い熱く　終盤粘ってV　惜しくも 4 位
※一般男子ダブルスカル優勝の和田選手・東田選手、高校女子シングルスカル 4 位の嶋選手を紹介
9 月 28 日　朝日新聞　26 頁　地域面　キャッチソー2017　挑戦 2 度目成長の跡
※びわこ市民レガッタに参加したクルーへの尾崎さんのコメントを掲載
10 月 4 日付　京都新聞　19 頁　地域面　タイム　息の長い強化システムを
※京都新聞地域面のコラムに杉藤コーチがコメントを掲載
11 月 19 日付　朝日新聞　29 頁　地域面　雨の中全力でオール　※Head of The Seta について紹介
11 月 23 日付　毎日新聞　21 頁　地域面　水を切り、風を切る　大津でボート・カヌーレース

※Head of The Seta について紹介
レイクスマガジン vol74　11 月号　13 頁　特集国体　あなたにとって国体とは
※レイクスサポートアスリートの東田選手が、自分にとっての国体と何か、7 年後の滋賀国体についてコメント
12 月 21 日　朝日新聞　25 頁　地域面　選手「夢はパラ五輪代表表彰台」大津・長等小でボート特別講義
※小学生へのボート教室でエルゴ指導をサポートしたことについて紹介

2 収益事業活動

朝日レガッタでのTシャツは会員の中原理歩さんのデザインが大好評であり、120 枚を 2 日で完売し、10.5 万円の利益を得た。しかし、3 日目には売り切れとなり、ビジネスチャンスを逸した感もある。エルゴはマシンローイングの払い下げ 8 台により、5.6 万円(昨年 30.7 万円)、ニールセン商品は 10.6 万円(昨年 5.6 万円)の利益を得た。昨年は会員の井原一篤さん企画による朝日レガッタ 70 周年記念参加スパナを受注し 9.0 万円の利益を得た。最終的な粗利は 48.9 万円(アパレル 10.6 万円、レンタル 8.0 万円、エルゴ 5.6 万円、NK10.6 万円、朝日レガッタ記念スパナ 9.0 万円、朝日レガッタ出店 3.0 万円、雑収入 2.1 万円)であり、目標の 50 万円に対して 98%達成した。昨年は中古エルゴ売却があり 59.8 万円の利益を得たため、昨年よりは下がったが、2 年前の 46.4 万円、3 年前の 32.7 万円と比較するとほぼ安定していると考えている。朝日レガッタでのTシャツ販売は、若者の心をつかめるTシャツのデザインを企画できるかどうかで、大きく左右することが鮮明となり、デザインによって注文枚数を変えるフレキシブルさが必要と痛感した。通常の物品販売では、ネット販売を継続し、できるだけ労力をかけずに事業を継続していく。今後、可能性のある事業を見出した場合、会員への協力を依頼し、その事業に注力するといった体制を取っていきたい。

2017 年活動まとめ

実施時期	実施場所	事業名	倶楽部員 従事人数	受益対象者
1/15(日) 大会前後数日	滋賀県立体育館	第29 回全国マシンローイング大会 近畿ブロックA大会 (前後にホストタウン交流事業)	約 100 名	参加者 910 名 海外招待選手 4 名 中高生ボート部員
2/26(日)	瀬田漕艇倶楽部	定期総会	出席 33 名 委任 48 名	正会員 145 名
4/22(土)	大津市なぎさ公園	第1回びわ湖ユニバーサルウォーキング大会(しがスポーツ大使)	9 名	一般市民
4/23(日)	瀬田川	セタシジミ祭／ドラゴン体験	4 名	一般市民 80 名
4/30(日)	瀬田漕艇倶楽部	40 周年記念パーティー		正会員・元会員
5/5(金)	瀬田漕艇倶楽部	コーチセミナー		ボート指導者・選手 84 名
5/21(日)	琵琶湖漕艇場	大津市民レガッタ支援	6 名	一般市民約 150 名
8/4(金)-5(土)	琵琶湖漕艇場	滋賀銀行内レガッタ(含前日準備)	38 名	滋賀銀行行員
9/2(土)-3(日)	びわこ競艇場	Biwako 湖フェスボート体験	12 名	一般市民湖フェス参加者
9/9(土)-10(日)	瀬田漕艇倶楽部 琵琶湖漕艇場	びわこ市民レガッタ (前日練習会＆クラブ交流会)	70 名	浜寺 MC,Penta,WithYou 一般市民約 500 名
11/18(土)-19(日)	瀬田川	Head of the Seta	約 100 名	参加延人数 638 名
12/24(日)	瀬田漕艇倶楽部	クリスマスパーティー	3 名	正会員およびその家族
5～11 月 第 2,4 日曜日	瀬田漕艇倶楽部 琵琶湖漕艇場	初心者ボート体験教室 (ドラゴンボート利用含む)		一般市民 130 名 (内ドラゴンボート 60 名)
4～10 月 11 月- 冬季練習	瀬田漕艇倶楽部 琵琶湖漕艇場	小学生ジュニアボート教室		地域小学生 9 名

倶楽部会員数

	会員数 2017 年 1 月 1 日	1年間の入会数	1年間の退会数	会員数 2017 年 12 月 31 日
正会員(家族会員)	142 (11)	24 (12)	17 (6)	149(17)
賛助会員	70	4	8	66
合計	212 (11)	28 (12)	25(6)	215(17)

第　１７　期

特定非営利活動に係わる事業会計

平成２９年　１月　１日から

平成２９年１２月３１日まで

特定非営利活動法人　瀬田漕艇倶楽部

（法人番号　：　1160005001332）

平成29年度「特定非営利活動に係わる事業会計」活動計算書

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

特定非営利活動法人　瀬田漕艇倶楽部

（単位　：　円）

科　　目		金　　額	
Ⅰ 経常収益の部			
1 会費、入会金収入			
会費	4,947,500		
入会金	690,000	5,637,500	
2 受取寄付金			
賛助金(個人)	432,000		
賛助金(法人)	100,000		
一般寄付金	30,000	562,000	
3 受取助成金			
受取助成金	50,000	50,000	
4 事業収益			
A1 マシンローイング近畿大会	1,653,500		
A2 びわこ市民レガッタ	1,143,000		
A3 Head Of The Seta	1,109,600		
B1 市民教室(体験教室)	321,500		
B2 朝日レガッタ コーチセミナー	137,000		
B3 レガッタ支援	162,000		
B4 イベント支援(シジミ祭・びわこフェス)	15,000		
B5 マシンローイングエアロビクス	0		
B7 40周年記念事業	10,000		
D1 クラブコーチ事業	848,912		
D2 海外選手交流事業(MR)	1,270,000		
D3 しがスポーツ大使事業	100,000		
W1 スポット事業	50,000		
その他	0	6,820,512	
5 その他収益			
受取利息	1,365		
雑収益	22,440	23,805	
経常収益 計			13,093,817
Ⅱ 経常費用の部			
1 事業費			
A1 マシンローイング近畿大会	1,262,844		
A2 びわこ市民レガッタ	696,548		
A3 Head Of The Seta	456,853		
B1 市民教室(体験教室)	21,500		
B2 朝日レガッタ コーチセミナー	120,455		
B3 レガッタ支援	0		
B4 イベント支援(シジミ祭・びわこフェス)	0		
B5 マシンローイングエアロビクス	0		
B7 40周年記念事業	218,906		
D1 クラブコーチ事業	1,812,591		
D2 海外選手交流事業(MR)	1,236,223		
D3 しがスポーツ大使事業	0		
W1 スポット事業	0		
その他	0	5,825,920	

2 管理費			
給料手当	660,270		
レクレーション費	0		
会誌発行費	152,882		
会議費	19,120		
交際費	28,142		
通信運搬費	11,744		
消耗品費	547,974		
保全費	784,363		
施設費	181,711		
水道光熱費	620,480		
減価償却費	3,510,084		
保険料	121,180		
諸会費	17,200		
租税公課	556,500		
支払手数料	228,906		
広告費	38,371		
強化費	137,252		
選手登録費	65,000		
予備費	0	7,681,179	
経常費用 計			13,507,099
当期経常増減額			△ 413,282
Ⅲ 経常外収益の部			
経常外収益 計		0	0
Ⅳ 経常外費用の部			
借艇 弁償金	2,741,303		
経常外費用 計		2,741,303	2,741,303
経理区分振替額			
収益事業会計振替額			0
税引前当期正味財産増減額			△ 3,154,585
法人税、住民税及び事業税			
当期正味財産増加額			△ 3,154,585
前期繰越正味財産額			97,233,162
次期繰越正味財産額			94,078,577

平成29年度「特定非営利活動に係わる事業会計」貸借対照表

平成29年12月31日現在

特定非営利活動法人　瀬田漕艇倶楽部

（単位　：　円）

科　　目		金　　額	
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金	142,854		
普通預金	15,629,522		
未収入金	0		
MR大会諸費用仮払金	421,559		
流動資産　合計		16,193,935	
2 固定資産			
建物	34,790,962		
構築物	2,551,820		
艇	2,250,152		
備品	493,858		
土地	24,000,000		
固定資産　合計		64,086,792	
3 投資その他の資産			
艇庫積立金	15,029,061		
長期前払費用	314,068		
固定資産　合計		15,343,129	
資産合計			95,623,856
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	166,667		
会費等前受金	0		
預り金	119,112		
MR大会前受金	1,259,500		
流動負債　合計		1,545,279	
2 固定負債			
	0		
		0	
負債合計			1,545,279
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		97,233,162	
当期正味財産増加額		△ 3,154,585	
正味財産　合計			94,078,577
負債及び正味財産　合計			95,623,856

第　１７　期

収益に係わる事業会計

平成２９年　１月　１日から

平成２９年１２月３１日まで

特定非営利活動法人　瀬田漕艇倶楽部

（法人番号　：　1160005001332）

平成29年度「収益事業会計」活動計算書

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

特定非営利活動法人　瀬田漕艇倶楽部

（単位　：　円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ 経常収益の部			
1 事業収益			
販売、サービス事業収入	3,561,255	3,561,255	
2 その他の収益			
預金利息 他	801	801	
経常収益 計			3,562,056
Ⅱ 経常費用の部			
1 事業費			
事業収益原価	3,073,053	3,073,053	
2 管理費			
事務通信費	84,411		
その他の経費	7,777	92,188	
経常費用 計			3,165,241
当期経常増減額			396,815
経理区分振替額			
収益事業会計振替額			0
税引前当期正味財産増減額			396,815
法人税、住民税及び事業税			72,200
当期正味財産増加額			324,615
前期繰越正味財産額			4,585,069
次期繰越正味財産額			4,909,684

平成29年度「収益事業会計」貸借対照表

平成29年12月31日現在

特定非営利活動法人　瀬田漕艇倶楽部

（単位　：　円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金	100,792		
普通預金	5,229,314		
在庫商品	26,778		
流動資産　合計		5,356,884	
資産　合計			5,356,884
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払法人税等	72,200		
前受金	375,000		
流動負債　合計		447,200	
負債　合計			447,200
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		4,585,069	
当期正味財産増加額		324,615	
正味財産　合計			4,909,684
負債及び正味財産　合計			5,356,884

平成29年度 財産目録

平成29年12月31日現在

特定非営利活動法人 瀬田漕艇倶楽部

（単位 ： 円）

科 目 ・ 摘 要			金 額		
Ⅰ 資産の部					
1 流動資産					
現金・預金					
現金		(一般)	142,854		
現金		(収益)	100,792		
普通預金 滋賀銀行 石山支店		(一般)	4,226,890		
普通預金 滋賀銀行 瀬田支店		(特別)	0		
普通預金 滋賀銀行 瀬田支店		(一般)	91,709		
普通預金 滋賀銀行 石山支店		(収益)	1,620,236		
普通預金 滋賀銀行 膳所支店		(収益)	110,483		
郵便貯金	普通通帳	(一般)	3,992,288		
郵便貯金	大会受付	(一般)	2,810,661		
郵便貯金	会費	(一般)	4,507,974		
郵便貯金	事業別会計	(一般)	0		
郵便貯金		(収益)	3,498,595		
在庫商品（販売商品在庫高）			26,778		
仮払金（H29年MR大会経費分）			421,559		
流動資産 合計				21,550,819	
2 固定資産					
固定資産					
艇庫積立金			15,029,061		
建物			34,790,962		
構築物			2,551,820		
艇			2,250,152		
備品			493,858		
土地			24,000,000		
長期前払費用（火災保険料）			314,068		
固定資産 合計				79,429,921	
資産合計					100,980,740
Ⅱ 負債の部					
未払金（H29年請求経費分）			166,667		
未払法人税等			72,200		
前受金（H30売上 エルゴ3台分）			375,000		
預り金（源泉所得税他）			119,112		
前受金（H29MR大会収入分）			1,259,500		
流動負債 合計				1,992,479	
負債合計					1,992,479
正味財産					98,988,261

書式第16号(法第28条関係)

平成29年度　計算書類の注記

特定非営利活動法人　瀬田漕艇倶楽部

1. 重要な会計方針
　計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日　2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)によっています。
（1）　棚卸資産の評価基準及び評価方法
　個別原価法

（2）　固定資産の減価償却の方法
　定額法

（3）　消費税等の会計処理
　税込経理

2. 事業別損益の状況

(単位:円)

事業名	収入額	助成金額	支出額	損益額
ﾏｼﾝﾛｰｲﾝｸﾞ大会	1,653,500		1,262,844	390,656
びわこ市民ﾚｶﾞｯﾀ	1,143,000		696,548	446,452
ﾍｯﾄﾞｵﾌﾟｾﾀ	1,109,600		456,853	652,747
その他	2,914,412	50,000	3,409,675	-495,263
合計	6,820,512	50,000	5,825,920	994,592

助成金額は参考のためであるので、損益額には助成金額は含まない。

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳
　該当なし

4. 使途等が制約された寄附金等の内訳
　該当なし

5. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物	33,657,832			33,657,832	12,633,219	21,024,613
建物付属設備	17,710,695			17,710,695	394,436	17,316,259
構築物	3,396,878			3,396,878	845,058	2,551,820
船舶	19,749,505	864,000		20,613,505	18,363,353	2,250,152
器具及び備品	1,565,870	248,400		1,814,270	1,593,698	220,572
一括償却資産	949,028			949,028	675,742	273,286
投資その他の資産						
長期前払費用	605,940			605,940	291,872	314,068
合計	77,635,748	1,112,400	0	78,748,148	34,797,378	43,950,770

6. 借入金の増減内訳
　該当なし

7. 役員及びその近親者との取引の内容
　該当なし

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・ 事業費と管理費の按分方法
　個別に対応

・ その他の事業に係る資産の状況
　該当なし